

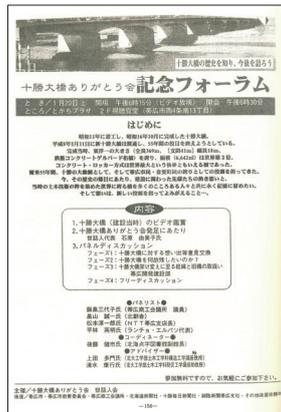
旧十勝大橋の思い出

現在の十勝大橋がかかり、それまでの十勝大橋（旧十勝大橋）はこわされることになりました。一方で、55年間十勝の交通を支えてきた旧十勝大橋は何より住民に親しまれてきました。

旧十勝大橋の歴史を知り、今後を語るため、帯広市民有志・十勝大橋ありがとう会、音更町民有志・名橋旧十勝大橋を語り継ぐ会、帯広市、音更町、帯広開発建設部が一緒になって実行委員会を組織し、各種イベントを行うことになりました。

記念フォーラムの開催

平成7年1月20日、「歴史の節目にあたり、建設に関わった先輩たちの熱き想いと、当時の土木技術の粋を集めた世界に誇る橋を多くのこころある人々と共に永く記憶に留めたい」と十勝大橋ありがとう会が呼びかけ、記念フォーラムを開催しました。旧十勝大橋の思い出や架け替えの経緯などについてパネルディスカッションが行われました。



旧十勝大橋 セレモニー

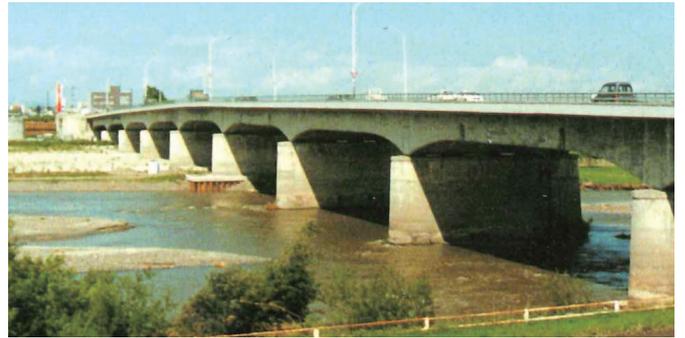
平成8年4月21日、解体作業の前に「さようなら旧十勝大橋」というお別れのイベントが開催され、地域住民による思い出の橋の「渡し納め」が行われました。

当日はセレモニーを実施した後、橋を歩行者天国として一般開放。平原太鼓の演奏、フリーマーケットのほか、チョークを手にした住民たちによる「ありがとう」「おつかれさま」といったメッセージやアートなどで橋は埋め尽くされました。カメラを手にした住民など1100人が集まりました。現在でも帯広側の橋台は往時をしのぶ歴史的建造物として残されています。



平原太鼓の演奏

渡し納めする地域住民



旧十勝大橋



さようなら旧十勝大橋 セレモニー



橋にメッセージを書く地域住民



旧十勝大橋の解体